
78巻1号

2023年1月1日

YAA 天文会報

(1~3月号)

795号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



皆既月食＋天王星

撮影：正木仁

観望ガイド

正木

2023年を迎えました。今年も会報発行へ会員の皆さまのご協力をよろしくお願いたします。

冬晴れの日没後、西南西の空に金星が目立つようになってきました。これから初夏にかけて宵の明星として輝きを放っていきます。夕焼け空に金星が光っていると、やはり外へ出て眺めてしまいます。特にこの冬は木星も近くに見えているので賑やかです。

まず1月、おなじみのしぶんぎ座流星群の極大ですが、7日が満月なので月明かりの影響があり、さらに極大時刻が日本では4日13時と日中になるので条件は悪いです。観測するのであれば、4日の日の出前、月が沈むころからでしょうか。23日の日没後、金星（ -3.9 等）と土星（ $+0.9$ 等）が接近しており、また新月を過ぎた本当に細い月（月齢1.5）も近くにいます。西南西の視界が開けた場所で見てみましょう。薄明の空に光る様子は格好の被写体になります。

2月は3日が節分、4日が立春です。一年で一番寒さの厳しい時期です。22日の夕空に月齢2の細い月のそばに金星（ -3.9 等）が並び、その上方に木星（ -2.1 等）が見えています。惑星の光度が明るいナンバーワンとツーそして月ですからたいへん目立ちます。翌23日になると月が金星・木星を追い越して一番上の並びになります。

3月では、24日に九州中部から沖縄で金星食を見ることができます。それ以外の地域では見ることはできず残念です。なお五島列島の一部では月に金星の一部が隠れる接食となります。

2023年の流星群の概要をまとめておきますが、今年の後半は新月が月の中旬になるため、8月のペルセウス座、はくちょう座 κ 群、10月のオリオン座群、11月のおうし座北群、しし座群、12月のふたご座群が月明かりの影響が少なく条件が良いです。とくに、ふたご座流星群は極大が12月15日午前4時と予想されていて、14日深夜から15日明け方にかけて活発な出現を見ることができると思います。昨年末の極大日には、自宅から火球ともいえるような大きな流星を見ました。近年は明るい流星や痕の残るものも増えているようですから、大いに期待したいです。

表紙「皆既月食＋天王星」撮影データ

2022年11月8日20時34分 PENTAX K-3 Mark III / HD-DA 1:4.5-6.3 55-300mm
焦点距離：300mm（35mm換算463mm）f9 露出：1/2秒 ISO-6400

最近の撮影成果

山形幹夫



上の画像は2022年12月24日の日没後に撮影した水星・金星のです。水星は22日が東方最大離角でした。皆様ご覧になりましたか？金星は地平近く中央やや右寄りです。水星は画像中央より少し左上です。レンズ焦点距離200mmで撮影の画像を縦基準に正方形に切り出しました。撮影は自宅近所です。



下の画像は10月28日に撮影したIC433くらげ星雲です。25cmf1000mmニコンD810A ISO5000 60秒×55コマ 撮影地は入笠山、正方形に処理。斜鏡スパイダーによる回折光が右側の輝星に見えますが、拡大すると先端の方が2本に分離していて、焦点調節が完全でないことが分かります。焦って撮影するとこんなミスも起こります。反省、反省。

日月星の伝承を訪ねて (74)

横山好廣

津久井の月待塔 ①

表題の津久井地方は神奈川県相模原市緑区の大半を占める広い山間地域で、旧津久井郡城山町・津久井町・相模湖町・藤野町が占めていた。津久井は月待塔の集散地で、事前の文献資料調査によるとその数は100余基になる。

神奈川県内の月待塔関連石造物の実見調査に取り組んで年月を重ねるが、この津久井地方が最終調査地になる。如何なる月待塔に出会い、何を見出すことが出来るのかと思うと楽しくなる。一方、コロナの月待塔調査の進捗に与える影響は気に掛かるが、折にふれて月待塔の報告をしたい。

●二十三夜塔

調査年月日 令和4年(2022)11月6日

調査地 相模原市緑区中野905 臨済宗 医王山友林寺境内

名称 二十三夜塔

形式 丸頭形角柱碑・文字塔

法量 塔身 104×52.5×10

台石 36×95×69

銘文等

正面 廿三夜

背面 發起人 藤田安国

明治十六年一月吉辰

願主 當邨中



本碑は自然石を台石に丸頭の角柱碑からなる堂々とした風格を感じさせる立派な月待塔である。

る。巨大な石造物ではないが、大きさを印 <友林寺・二十三夜塔>

象付ける。造立年代は明治十六年と比較的新しいが、本碑で注目したい点は城山ダム建設に伴い津久井湖が建設されるときに不津倉集落から友林寺や他の石造物等とともに現在地に移転されたことである(人見ご住職談)。

つまり、津久井湖建設のため不津倉全戸及び友林寺は水没の犠牲となり、愛着の断ちがたい平和で豊かな墳墓の地から移転することを余儀なくされたのであった。不津倉は団結して最後まで抵抗したが、昭和37年、暮れも押し詰まった12月27日、友林寺で不津倉地区の合同調印式がなされた。なお、友林寺の落慶入仏の式典は昭和39年(1964)4月に行われた由である(参考・『津久井町郷土誌』『津久井湖誕生』『津久井町ダム史]。)

友林寺の人見ご住職に伺ったことや諸資料を基に、本碑から見えてきた事柄を次のようにまとめた。

- ① 本碑中の「當邨中」という刻銘に加え、不津倉は全戸一族にも等しいまとまりのある地域であったことも考えると、かつての二十三夜待行事は集落全体（26 世帯）で行われていたと考えられる。但し、二十三夜待が何時頃に始まり、何時まで続いていたのか、月待行事の次第や内容等については不明である。一方、不津倉は相模川に沿う河岸段丘の南斜面に位置し、高度は低いが東西方向に開けていたので、二十三夜の月を拜するのに不都合はなかったと推測する。二十三夜待には、友林寺に 26 世帯から人々が集まり、念仏を唱え、談笑を楽しんだりしながら深夜に東の方から上がってくる二十三夜の半月（下弦の月）を待ち、月中にご本尊（勢至菩薩）を観想し、不津倉や家族の健康・安全や繁栄を祈ったことと想像する。本碑は不津倉の信仰や月と人々の生活の関りを伝える貴重な資料である。
- ② 「發起人 藤田安国」中の、藤田安国とは明治 16 年当時の友林寺のご住職・安国和尚が本碑の發起人であったことを示している。安国和尚は二十三夜待ちの指導的立場にあり、檀家寺と檀徒の間の良好な関係が偲ばれる。当時は友林寺のご住職は藤田姓を名乗っていた。その由来は不津倉の姓は佐藤（13 世帯）と長田（13 世帯）の両姓で、その姓から一文字ずつ採って藤田にしたという話がある。また、友林寺を藤田寺と称することもあったようである。不津倉の二十三夜待は檀家寺と檀家とが一体の月待行事であったことを本碑は教える。
- ③ 本碑の姿は既に触れたように、塔身・台石ともに堂々として立派なものである。何処の石屋に調達したのか不明だが、かなりの費用が要った筈である。このことは、不津倉が裕福であったことを証する。境内にある石造物の多さや造りの良さを考え合わせるとその裕福さが偲ばれる。

因みに、友林寺境内に安置されている主な石造物を紹介すると、二十三夜塔・萬霊塔・観世音供養塔・六地藏尊・地藏尊・大乘経王塔・六文字名号塔・馬頭観世音・秋葉山供養塔・道祖神等である。しかし、各地でよく見かける庚申塔については未見である（補・『津久井町郷土誌』）。

以上、甚だ僭越ですが、二十三夜塔を通して湖底に沈んだ不津倉に思いを馳せた次第である。かつての生活の一場面を知る一助になれば幸いである。

本碑に直接的に関わる内容ではないが、本堂と参道入り口の小堂に絵図が掲げられている。作者は不津倉出身の佐藤益男氏で、子供の頃の記憶を基に詳細な不津倉の絵図を描きあげられた。絵図の他に不津倉周辺の鳥観図や相模川・オギン淵の彩色写真画も制作され、こちらも本堂に掲げられている。何れも素人離れした出来栄で、かつての不津倉を彷彿させる資料的な価値が高く、故郷・不津倉を偲ぶ熱い心情が伝わってくる。さらに、同氏には佐藤茂氏も交えて不津倉の民

俗色豊かな道祖神祭り（オンマラサマ）やオギン渚などについて貴重な話を伺うことが出来きて幸運であった。

今回の調査では、ダム建設・人造湖造成のために湖底に沈んだ集落のことや慣れ親しんできた墳墓の地を離れる苦渋の選択をせざるを得なかった人々のことを忘れてはならないことを教えられたような気がする。そして、このような尊い犠牲の上に神奈川県的发展や我々の生活が成り立っていることを改めて考えさせられた。

最後になりましたが、ご多用の中、初対面の調査者に親切に接して下さった友林寺の人見ご住職、不津倉の佐藤益男氏、佐藤茂氏に大変お世話になったことを記し、心より御礼申し上げます。

<友林寺 本堂>



<参道入り口 小堂>

真中の地藏尊の背後に
絵図が掲げられている



天 象

相原 榮

1月

水星: 明け方の東南東天低空から高度を上げる +1.1~+4.7~-0.1等 やぎ→いて座
金星: 夕方の南西天低空から高度を上げる -3.9等 やぎ→みずがめ座
火星: 夜半前に南中、観望好期 -1.2~-0.3等 おうし座
木星: 宵の南西天で輝く、夜半前に沈む -2.3~-2.2等 うお座
土星: 宵の南西天に、その後沈む +0.9等 やぎ座

3日 宵の天頂付近で月と火星が接近	22日 05h57m 新月
4日 13h しぶんぎ座流星群が極大の頃 (満月に近く悪条件)	23日 夕方の南西天低空で金星・土星・月が 集合
6日 00h05m 小寒	26日 宵の南西天で月と木星が接近
7日 08h08m 満月	29日 00h19m 半月(上弦)
15日 11h10m 半月(下弦)	31日 宵の天頂付近で月と火星が接近
20日 17h30m 大寒	

2月

水星: 明け方の東天で高度を下げる、上旬は観望好期 -0.1~-0.6等 いて→やぎ座
金星: 夕方の西南西天で高度を上げる、後半は観望好期 -3.9等 みずがめ→うお座
火星: 宵に南中、前半は観望好期 -0.3~+0.4等 おうし座
木星: 夕方の西天、宵に沈む -2.2~-2.1等 うお→くじら→うお座
土星: 太陽に近く観望困難 +0.9~+0.8~+0.9等 やぎ→みずがめ座

4日 11h43m 立春	19日 07h34m 雨水
6日 03h29m 満月	20日 16h06m 新月
14日 01h01m 半月(下弦)	22日 夕空で月と金星・土星が集合
15日 宵の西天低空で金星と海王星が大接 近	27日 17h06m 半月(上弦)
	28日 宵の天頂付近で月と火星が接近

3月

水星: 明け方の東南東天低空、以降観望困難 -0.6~-1.9~-1.1等 やぎ→みずがめ
座
金星: 夕方の西天で輝く、観望好期 -3.9~-4.0等 うお→おひつじ座
火星: 夕方に南中、夜半頃に沈む +0.4~+0.9等 おうし→ふたご座
木星: 夕方の西天に、その後沈む -2.1等 うお座
土星: 明け方の東天低空 +0.9等 みずがめ座

2日 夕方の西天低空で金星と木星が大接 近	22日 02h23m 新月
6日 05h36m 啓蟄	24日 宵の西天で月と金星が大接近(九州南 部~沖縄では金星食)
7日 21h40m 満月	28日 宵の西天で月と火星が接近
15日 11h08m 半月(下弦)	29日 11h32m 半月(上弦)
21日 06h24m 春分	30日 夕方の西天で金星と天王星が接近